

地域教育情報誌

チュウホク ドット コム
中北.com

中北教育事務所
教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013



中北の地域社会（**com**munity）の心の交流（**com**munication）をめざします

Pickup!

秋空の下、ふるさとの山へ ～須玉小学校6年生の登山教室～

9月26日、須玉小学校（皆川賢司 校長）の6年生17名が、登山教室で横尾山（標高1,818m）に挑戦しました。澄み渡る秋空のもと、子どもたちは色づき始めた山の景色を味わいながら、歩を進めました。

朝の集合時には、少し緊張した様子も見られましたが、登山が始まると元気いっぱい。急な登りでは先生方の「がんばれ！もう少し！」の声に励まされ、一步一步前へ。山頂に着くと「やったー！」と歓声が上がリ、達成感に満ちた笑顔が広がりました。「こんなに登ったんだ！」と見下ろす景色に感動する姿も印象的でした。



自然に囲まれて、ひと休み

山頂から少し下った「カヤトの原」では、ススキに囲まれておにぎりタイム。今回が初めての登山だった子どもも多く、「疲れた～」という言葉が自然とこぼれますが、青空の下で食べるごはんはやはり格別。友だちとの会話に元気と笑い声が戻ってきます。



かけがえのない体験

下山後の子どもたちは、疲れもありながら、満足そうな表情でした。

17名の仲間と登りきった経験は、子どもたちにとって大切な思い出となり、大きな成長の一步につながったことでしょう。

地域の力に支えられ

子どもたちを先導したのは、須玉小学校の元校長で学校運営協議会委員を務める矢崎 茂男さんです。在職中に、郷土への関心と自然への親しみを育てようと、この取り組みを企画しました。登山の道中では、横尾山周辺の自然環境や野生動物の暮らし、環境問題について、時折足を止めて子どもたちに話をされました。「なぜ横尾山の土は黒いのか」といった問いかけに、子どもたちは興味津々に耳を傾け、学びを深めていました。

この日は、校長先生をはじめとした先生方のほか、看護師や山岳会員の方々、そして明野・小淵沢駐在所の職員の方々も同行し、安全面に気を配りながら、子どもたちに温かく声をかけていました。

校長先生は「毎年、地域みなさんに支えていただき、本当にありがとうございます」と感謝の言葉を口にしていました。子どもたちが安心して故郷の自然に触れ、学びを広げられるのは、地域の温かな眼差しと支えがあってこそだと感じさせてくれる一日でした。

Pickup!

手でみる

～ 山梨県立盲学校の「手でみるプロジェクト」より～



「手でみるプロジェクト」は、触れることを通して子どもたちの感性を育む取り組みです。山梨大学・山梨県立盲学校・台湾の大葉大學などが中心となり、国内外の大学等と連携して毎年開催されています。

今年度も6月に、山梨県立盲学校（水上 奈由美 校長）小学部でワークショップが行われました。講師は山梨大学 教育学部 武末 裕子 准教授。子どもたちは粘土を使って作品づくりに挑戦し、完成した作品は窯で焼かれて10月に山梨県立図書館の「2025ふれてみる展覧会」に展示されました。

ふれる・表現する



広瀬 浩二郎 先生から 子どもたちへの応援メッセージ

土はかたくて、やわらかい。
水はつめたくて、あたたかい。
火はつよくて、よいわい。
土をこね、水をまぜ、火をあてる。
粘土の手ざわりはどんどん変わっていく。
僕たちはみんな「つくる手」を持っている。
手づくりの味わいは、さわってみないとわからない。
さあ、さわってみたくなるような作品ってどんなものだろう。
手で考え、手が感じる「唯一無二」の作品を山梨から世界へ！



広瀬 浩二郎 先生

国立民族学博物館 教授 総合研究大学院大学 教授
筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。著書多数。

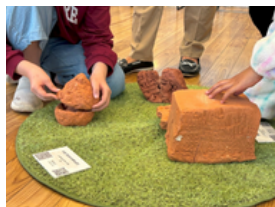
6月のワークショップ冒頭では、今年度のプロジェクトに参加した広瀬 浩二郎 先生からの応援メッセージが披露されました。「大きく身体を使って、触れる喜びと作る楽しさを感じてほしい」と語る武末先生の言葉どおり、子どもたちは夢中になって粘土をちぎったり、たたいたり、なでたり、道具を使って穴を開けたり…。思い思いに手を動かして、のびのびと制作に取り組めます。

完成した作品を誇らしげな表情で見せてくれた子どもたちでした。

ふれる・鑑賞する

10月24日、小学部の子どもたちが「ふれてみる展覧会」を訪れました。武末先生や今回出展している国内外のアーティストたちが温かく迎えます。会場には、イタリアのアーティストによる「ふれてみる絵本」も並び、国際色豊かな展覧会です。

子どもたちは、並べられた自分の作品や友達の作品を確認して、手触りを味わいます。アーティストの作品にも手を伸ばして感触を楽しむ子どもたちは自然と笑顔に。武末先生や、制作者である広瀬先生、アーティストたちとふれあいながら鑑賞する時間は、子どもたちにとって特別なひとときです。お気に入りの作品を見つけて夢中になる子もいれば、ひとつひとつ丁寧にふれて感触を味わう子もいます。手で芸術にふれる秋の一日でした。



#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを寄せていただきました。

地域ともに、私たちのまちづくり

令和7年度中北地区地域教育推進連絡協議会委員
一般財団法人 南アルプス青年会議所 理事長

須貝 裕介 さん



私たちは南アルプスJCです

一般社団法人南アルプス青年会議所は、日本百名山を擁し、ユネスコエコパークにも登録された南アルプスの豊かな自然に抱かれた山梨県南アルプス市を拠点とする団体です。

私たちは、20歳から40歳までの、地域を愛し、その未来に情熱を燃やす多様な職業の若者が集い、「明るい豊かな社会」の実現という世界共通の理念に向かって活動しています。

青年会議所（JC）運動の根幹には、「修練（トレーニング）」「奉仕（サービス）」「友情（フレンドシップ）」という三つの信条があります。私たちは、この信条に基づき、日々の活動を「まちづくり」と「ひとづくり」の両面から展開しています。

地域の魅力を引き出す「まちづくり」

私たちの「まちづくり」は、南アルプス市の持つ無限の可能性を引き出すことから始まります。豊かな自然、高品質な農産物、歴史ある文化といった地域資源を再発見し、その価値を高め、市内外へ力強く発信する事業を企画・実行しています。また、地域のイベントを盛り上げるだけでなく、人口減少や地域経済の活性化といった現代社会の課題にも真摯に向き合います。行政や商工会、NPO、地域住民の皆様と深く連携し、未来を見据えた政策提言や、持続可能な地域社会を実現するための具体的な行動を起こしています。



子どもと自分を育てる「ひとづくり」

私たちの「ひとづくり」は、二つの側面を持っています。一つは、未来の主役である子どもたちの健全な育成です。地域の自然や産業に触れる体験学習、キャリア教育の支援などを通じて、子どもたちが郷土に誇りを持ち、夢を描ける環境づくりに貢献しています。本年は、子ども意見交換会という事業で、南アルプスの子どもたちと行政を結びつけて市長と意見交換会という形で交流を図る事業を行いました。子どものうちから行政やまちづくりへの関心の醸成を促しました。

もう一つは、私たちメンバー自身の「自己成長（修練）」です。南アルプスJCには、農業、製造業、商業、サービス業など、実に多様なバックグラウンドを持つ仲間が集まっています。普段の仕事では出会えない仲間と、一つの目標に向かって本気で議論し、事業をゼロから創り上げるプロセスそのものが、最高のリーダーシップ開発の場です。定期的な例会や研修会を通じて、社会人として、また一人の人間として成長し続けています。

若者の力で「あした」を創る

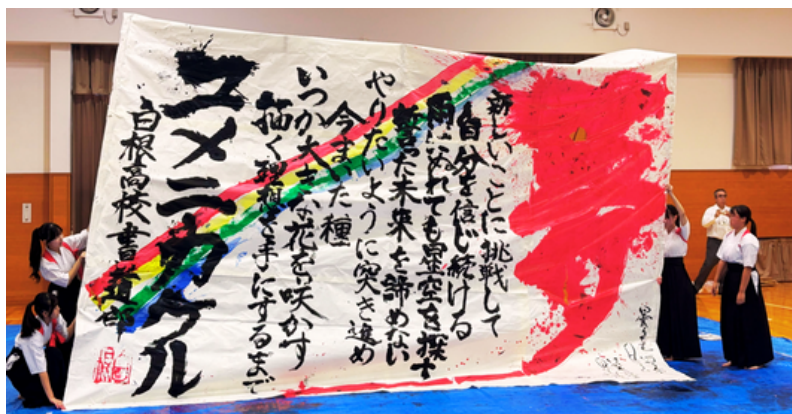
南アルプス青年会議所は、若者ならではの柔軟な発想力と、失敗を恐れない行動力を武器に、このまちの「あした」を創る原動力となるべく活動しています。私たちの運動に共感いただける皆様のご理解とご支援、そして、この南アルプス市の未来を共に考え、行動する新しい仲間のご参加を心よりお待ちしております。



Pickup!

甲斐市公民館合同ふれあい講座

書でつなぐ学びの輪 ～山県大貳 生誕300年記念事業～



9月21日、竜王武道館にて、甲斐市ゆかりの偉人・山県大貳の生誕300年を記念したイベント「書でつなぐ学びの輪」が開催されました。この催しは、大貳の志や功績を今に伝えようと、甲斐市の公民館5館が合同で企画したものです。

やまがた だいに 山県 大貳 とは

甲斐国篠原村(現 甲斐市篠原)出身の江戸時代中期の学者・思想家です。私塾を開き、儒学や兵学を教え、数千人もの門弟を育てました。また、書の分野でも高く評価されていたと伝えられています。大貳の著書「柳子新論」は、百年後の吉田松陰らに大きな影響を与えたことで知られています。その思想は、明治維新にも影響を与えたとされる、甲斐市ゆかりの偉人です。

高校生が魅せる のびやかに、力強く



会場では、白根高校書道部の生徒たちによる書道パフォーマンスが披露されました。音楽に合わせて繰り広げられる、しなやかで勢いのある筆さばき。そして「やりたいように 突き進め 今また種 いくつか大きな

花を咲かす」というメッセージは、力強い筆遣いとともに、会場の人たちを感動させました。

幕政を批判したことで処刑された大貳。その言論の自由がなかった時代を思うと、今を生きる若者たちがのびのびと筆を執る姿は、未来への希望を感じさせてくれました。

みんなで楽しむ 書の世界

書道体験では、白根高校書道部の生徒たちが書いたお手本をもとに、子どもから大人までが思いを込めて筆を走らせました。生徒たちの声かけやアドバイスを受けながら、参加者は、半紙2枚分の大きな紙にのびやかに筆を運び、書の楽しさを味わいました。



体験を終えた子どもたちは、「丁寧に教えてもらえてうれしかった。」と笑顔で自分の作品を見せてくれました。書道部の生徒たちも、「緊張したけれど、楽しんでできた。」「書くことは楽しい。ひとりでも、みんなと一緒にでも楽しめる。これからも地域を盛り上げながら、書道の魅力を伝えていきたい」と語っていました。

書を通じて人と人がつながり、世代を超えた学びの輪が広がったイベントとなりました。

紙面を飾ってみませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。

学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。

問い合わせは右記まで、お気軽にお声がけください。

令和7年度 『中北.com』 No. 4
編集・発行 中北教育事務所
担当 花形 健一・江川 みづほ
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4
電話 0551-23-3046